**釧路の昆虫**

釧路湿原には、1,000を超える種類の昆虫が生息しています。多くの昆虫の卵と幼虫が動かずに冬を過ごした後、4月下旬には卵から孵り、姿を変えて現れます。この地域の昆虫を見るには、相対的に暖かい4～11月が最適です。

理想的な生育環境

湿原の水と植生は、多くの種の昆虫に食料と住みかを提供します。イイジマルリボシヤンマ (学名: Aeshna subarctica) など、いくつかの種は、沼や池の岸にあるコケやスゲの上に卵を生みます。すると、幼虫は沼や池の水生昆虫を食料にできます。ミドリシジミ (学名: Neozephyrus japonicus) のように、より高いところに生息する昆虫もいます。ミドリシジミは、ハンノキ (学名: Alnus japonicus) の葉の芽の下に卵を生みます。ハンノキが、住みかと食料を提供してくれます。

夏の音

夏の間、釧路湿原では、様々な種の昆虫の鳴き声を聴くことができます。エゾハルゼミ (学名: Terpnosia nigricosta) が5月下旬に鳴きはじめ、ついで7月下旬にコエゾゼミ (学名: Lyristes bihamatus) が鳴きはじめます。夏の終わりには、ハネナガキリギリス (学名: Gampsocleis ussuriensis) の鳴き声が湿原を満たします。

一生の仕事

釧路市立博物館に展示されている昆虫標本は、北海道東部の昆虫の専門家である飯島一雄 (1928～2016年) 氏が収集したものの一部であり、飯島氏ははるかに多くの昆虫標本を作成しました。彼は、人生の多くをかけて、この地域の昆虫を収集し分類したのです。